

さらなる「信頼のきずな」を育むために

～「三鷹市自治体経営白書2005」の発行にあたって～

平成16年度の三鷹市の主な取り組みや成果を取りまとめた「三鷹市自治体経営白書2005」ができました。私は平成16年度の施政方針において、「未来志向の改革」として「3つの改革の柱」の取り組みを掲げました。「3つの改革の柱」とは、「第3次基本計画」の改定、「行財政改革アクションプラン2010」の策定、そして「自治基本条例」の制定です。二つの計画づくりについては、平成16年度末に確定を図るとともに、「自治基本条例」についても3月末に条例検討試案を公表し、平成17年6月議会に条例案を提案することができました。その意味で、平成17年度は、「第3次基本計画（改定）」や新たな行革プランの「実行元年」であり、今後の三鷹の自治のあり方を検討する重要な年と言えます。

新たな計画の実行に向けてスタートするに当たって忘れてならないのは、これまでの計画の取り組みについて、その実績や成果を確認することです。そして、目標の達成に至らなかった施策や残された課題を検証し、それを市民の皆さんに明らかにすることを通して、今後の取り組みにしっかりとつなげることです。

平成13年度に策定した「第3次基本計画」では、新しい試みとして、施策の目標を明確にするために34の施策ごとに「まちづくり指標」という成果指標を設定し、平成16年度までの計画前期と平成22年度までの計画期間それぞれの目標値を定めました。そこで、今年の白書では、基本計画の達成状況については当初設定したこの二つの目標値に対して、平成16年度までにどこまで達成できたかをグラフを用いて明らかにし、前期計画の総括を行いました。

また、平成12年度に策定した「行財政システム改革大綱」と「実施方策」については、目標年度を平成17年度としていましたが、計画期間を1年前倒して新たな行革プランを策定しました。そこで白書では、行財政改革についても旧計画の達成状況を明確にして、最終総括を行いました。

さて、今年は「市制施行55周年」の年という節目の年に当たりますが、あたかもそれを祝福するかのように、今年の1月には、WTA世界テレポート連合という国際的な非政府組織から、インテリジェント・コミュニティ（情報都市づくり）の分野で三鷹市が世界の「トップ7」に選ばれ、さらには6月に米国で行われた最終審査では「トップ1」の荣誉に輝くことができました。三鷹市が受賞した主たる理由は、情報通信技術に関する先駆的な基盤整備と、その利活用について、長年にわたって「民学産公」の「協働」による取り組みを進めていることであると発表されています。

私としては、これまで市民の皆さんとともに進めてきた三鷹市の「協働のまちづくり」について、情報都市づくりの分野でこのような評価をいただいたことをまずは謙虚に喜びたいと思います。そのうえで、今後も三鷹市は、常に「学習する組織」として継続的に改革・改善を積み重ね、直面する課題を直視しそれを解明して、望ましい「あすのまち三鷹」の構築に向けた優れた活動を創造していく真摯な姿勢を忘れてはならないと考えています。そのためにも、「自治体経営白書」の発行の目的であり理念でもある、「成果だけでなく未達成のものも明確にお示しすることが、『次の一步』を約束する信頼を生み出す」ことを大切にしていきたいと思います。

私の市政運営の原点は、「信頼しあえるまちにしたい」ということですが、この「三鷹市自治体経営白書2005」が、市民の皆さんと市政の間にいっそうの「信頼のきずな」を育み、「協働のまちづくり」と「輝くまち三鷹」の創造に向けた一助になれば幸いです。

平成17年6月

三鷹市長 清原慶子